

豪雪地域での農地・農業用施設災害復旧工事、春耕期までに確実に...橋爪委員が注文

3月になっても山間部では3メートルを超える積雪になっているところがありますが、昨年の豪雨災害で被災した農家からは、災害復旧工事が春耕期までに終わるかどうかが心配の声が出ています。

橋爪委員は、「苗代、農道などの緊急除雪も当然だが、農地、農業用施設などの災害復旧工事は大丈夫か。責任を持って春耕期に間に合わせてもらいたい」と訴えました。中村農水部長は、「着実な実行に向けて努力する」と答えました。

義務教育無償の原則崩す学校後援会予算は問題

厳しい予算抑制の動きの中で市内の小学校教材費などの低さが問題となっています。教育委員会関係の審議では、橋爪委員だけでなく、与党会派の委員も「学校現場では教材費が足りないという声があがっている」「決済が遅い」などとのべ、改善を求めました。

橋爪委員はまた、合併前上越市内のA小学校後援会予算(案)を明らかにしながら、学校後援会予算の中には義務教育無償の原則に抵触する可能性のあるものがあるとして、調査を求めました。小林教育長は調査を約束しました。

《参考》

小学校教材費データ

児童1人あたり教材消耗品費	約5400円
児童1人あたり図書費	650円
児童1人あたり教材備品	約2480円



文教経済委員会での審議(2日)

乳幼児医療費(通院)助成対象 就学前までの引き上げは速やかに実施を...樋口委員

合併協議で、合併後、最優先で財源を確保し、対象年齢を速やかに引き上げるよう最大限努力する」と決まっている乳幼児医療費助成事業。問題となっている通院については、新年度も対

象年齢を一歳引き上げる(五歳児まで)にとどまりました。

樋口委員は前年度よりも一歳引き上げたことは評価しつつも、「次年度には就学前まで引き上げを」と訴えました。市川文一議長も「ここまでくれば、就学前までやらないと不公平感が生まれる」と引き上げを求めました。

田村博健康福祉部長は、「この事業は少子化対策にも資するものだ。残り一年齢引き上げについても可及的、速やかにできるように努力していきたい」と答弁しました。

紙おむつ助成事業は

一定の改善措置

寝たきり高令者などをかかえる世帯から喜ばれている紙おむつ助成事業は、昨年のアンケートを踏まえて、新年度から種類を多くするなど改善がはかられました。しかし、現物支給の基準となる金額の引き上げは見送られました。



厚生常任委員会での審議(7日)

常任委員会審議から

常任委員会審議が2日から始まっています。今号では橋爪議員が所属する文教経済委員会、樋口議員が所属する厚生常任委員会での質疑のいくつかをお知らせします。杉本議員所属の総務常任委員会審議は15日からとなります。

日本共産党上越市議団ニュース

41 2006年3月12日

連絡先	杉本敏宏	524-3787	(東本町5)
	樋口良子	544-6802	(中門前3)
	橋爪法一	548-3628	(吉川区代石)
事務局長	上野公悦	530-2203	(頸城区中柳町)